

## 平成20年度 損害保険会社決算概況

### 1. 平成20年度決算の特徴点

保険引受利益は、保険料の減収や保険金支払いの増加はあったものの、支払備金繰入負担の減少や責任準備金の戻入により黒字に転じました。

しかし、金融危機を発端とする市場の混乱のため、有価証券の評価損や利息及び配当金収入の減収により経常利益は赤字となりました。

特別損益において、運用資産の価格変動に備えるために積み立てた価格変動準備金の戻入を行いました。当期純利益も赤字となりました。

### 2. 決算概況

経常収益は、保険引受収益が8兆6,823億円、資産運用収益が6,619億円となった結果、19年度比2.3%減の9兆3,750億円となりました。

一方、経常費用は、保険引受費用が7兆3,927億円、資産運用費用が8,572億円、営業費及び一般管理費が1兆3,492億円となり、19年度比4.5%増の9兆6,329億円となりました。

この結果、経常利益は、19年度比168.2%減益の2,579億円の損失となり、また、当期純利益も19年度比134.2%減益の810億円の損失となりました。

### 3. 保険引受の概況

#### (1) 正味収入保険料

正味収入保険料は、自賠責保険料率の大幅引き下げの影響により、全種目合計で19年度比4.1%減の7兆1,618億円となりました。

\* 正味収入保険料 = 元受正味保険料 + 受再正味保険料 - 出再正味保険料

#### (2) 正味支払保険金

正味支払保険金は、新種保険や傷害保険の支払保険金が増加したこともあり、19年度比1.4%増の4兆3,995億円となりました。

\* 正味支払保険金 = 元受正味保険金 + 受再正味保険金 - 回収再保険金

損害率は、正味支払保険金の増加および自賠責保険料の減収により、3.8ポイントアップの66.6%となりました。

#### (3) 保険引受に係る「営業費及び一般管理費」

保険引受に係る「営業費及び一般管理費」は、業務体制整備に向けた投資等もあり、19年度比3.7%増の1兆2,685億円となり、事業費率は1.9ポイントアップの35.1%となりました。

#### (4)保険引受利益

保険引受利益は、正味収入保険料の減収、正味支払保険金や営業費及び一般管理費の増加等の減益要因があったものの、支払備金の繰入負担が減少したことや、責任準備金(異常危険準備金や普通責任準備金)の戻入により、19年度の639億円の赤字から、162億円の黒字となりました。

\* 保険引受利益 = 保険引受収益 - 保険引受費用 - 保険引受に係る営業費及び一般管理費 ± その他収支

#### 4. 資産並びに資産運用の概況

平成20年度末における総資産は、金融市況の低迷により保有している株式や外国証券等の時価が下落したことから、19年度末の34兆7,091億円から13.7%減の29兆9,411億円となりました。

また、「その他有価証券評価差額金」が減ったことから、純資産も19年度末の6兆8,637億円から37.9%減の4兆2,590億円となりました。

資産運用については、資産運用収入の中核をなす利息及び配当金収入が、外国有価証券の利息等の減収により19年度比19.9%減の5,928億円となったことや、資産運用費用においては金融危機の影響により有価証券評価損が19年度比641.0%増の5,127億円発生したことなどから、資産運用粗利益は赤字となりました。

\* 資産運用粗利益 = 資産運用収益 - 資産運用費用

#### 5. ソルベンシー・マージン比率

ソルベンシー・マージン比率は、株価下落による「その他有価証券評価差額金」の減少により比率を下げている会社が多いものの、全社とも法律で求める適正な水準であり、健全性については問題ない状況です。

本集計は以下の協会加盟会社(26社)を対象としています。

あいおい損保、朝日火災、アドリック損保、アニコム損保、エイチ・エス損保、SBI損保、共栄火災、ジェイアイ、スミセイ損保、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぽ24、大同火災、東京海上日動、トア再保険、日新火災、ニッセイ同和損保、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

(注)現在の協会加盟会社は27社です。(2009年6月13日付でイーデザイン損保が協会加盟していますが、本集計の対象としていません。)

# 損害保険会社の平成20年度決算概況

億円

